



鳥取県

臓器・アイバンクだより



2013.8
No.

12

発行人 公益財団法人 鳥取県臓器・アイバンク

〒683-8504 米子市西町36番地の1 (鳥取大学医学部内)

TEL / FAX (0859) 34-4809 ホームページ : <http://www.zouki-t.net>

～グリーンリボンは移植医療のシンボルです～

皆さん、こんにちは。鳥取県臓器・アイバンクです。

当財団では、移植医療のことを鳥取県民の皆様にご理解していただく活動をしています。

平成25年4月より、公益財団法人 鳥取県臓器・アイバンクとして組織が新たになり、名称も変更となりました。

当財団理事長の挨拶と平成24年度の活動をご報告します。

ごあいさつ 井藤 久雄 氏 (公財) 鳥取県臓器・アイバンク理事長



鳥取県臓器・アイバンクは2013年4月1日、公益財団法人に移行しました。これまでご尽力いただいた各方面の関係者に深謝いたします。新公益法人法に則り、評議委員会は本財団の業務を指導・監督する立場がより明確となり、各種決裁事項への権限強化が図られました。このため組織改編が行われ、移植医療への造詣が深い関係者が評議員として新たに選任されました。

さて、我が国の移植医療は多くの隘路を抱えながらも着実に進展しており、特に脳死下臓器提供は数こそ少ないものの、移植後の成績(生着率)は世界に冠たるもので、移植医療レベルの高さを誇っております。

臓器移植はドナーの存在を必要とする特殊な医療であり、国民の理解とともに検証を伴う社会システムの整備が必要であります。脳死下臓器提供症例は厚生労働省の臓器専門委員会および「脳死下での臓器提供事例に係る検証会議」にて検証がすすめられています。2013年3月までに150例の検証作業を終えており、概ね妥当な臓器提供が実施されていることが報告されています。

2010年7月に改正臓器移植法が施行されて以降、例年10例前後であった脳死下臓器提供が2011年は44例、2012年は45例と増加しており、その多くはご家族が臓器提供を判断された事例です。提供を決めた理由としては、提供者本人の意思を忖度して「誰かの役に立ちたい」などの「社会貢献」が最も多いのです。国民の脳死に対する概念や臓器提供への考え方に変化が生じているのではないのでしょうか。

翻って、鳥取県では1999年と2003年に心臓死下臓器提供が、2011年に脳死下臓器提供が実施されています。

2013年3月末までに実施された献腎移植数は8例、生体腎移植数は62例、生体部分肝移植は2例に留まっており、臓器移植数は多いとは言えませんが、県民の臓器提供や移植医療に対する意識は着実に高まっております。

公益財団法人鳥取県臓器・アイバンクは県内外の各種団体と協力して、県民への移植医療に関する普及啓発活動や医療機関への支援などを通じて、臓器・眼球提供が円滑に実施され移植医療の発展に寄与いたします。

ドナーの尊いご意志を尊重し、実現するためにも、本公益法人の目的・活動にご理解とご支援を賜り、ひいては移植医療の円滑な実施が推進されますよう、ご協力をお願い申し上げます。

平成24年度の活動報告

第5回 グリーンリボン公開講座を開催しました

グリーンリボンが移植医療のシンボルマークであることから、鳥取県の市民公開講座を『グリーンリボン公開講座』と名付けて5回目。平成24年10月21日(日)鳥取県民ふれあい会館で開催。今年は映画『孤高のメス』を上映しました。映画上映前に、原作者大鐘稔彦氏の講演を実施、映画への理解を深めてから映画鑑賞をしていただきました。一般県民、医療関係者など140名の参加がありました。



第5回公開講座の内容

《テーマ》: 『移植医療を考える・講演と映画上映』

■ ～つなぐ命の大切さを考える～

《講演》: 大鐘 稔彦 氏 (南あわじ市阿那賀診療所所長)

講演: 『メスは両刃の剣』

要旨: 今日、私が原作を書きました『孤高のメス』を上映していただくということでうれしく思っています。この映画は、2010年にロードショーとなり、その後こうした上映会をあちこちで開いていただけて光栄に思っています。



さて、本日の講演のタイトルは、『メスは両刃の剣』。優れた外科医がメスを取ればそれは病巣をえぐり取る名器になるけれども、下手な外科医にかかるとメスは凶器になる危険性を秘めている、ということです。

手術というのは、メスを取る以上は必ず傷を付ける、傷を付けるが癒す故に許される行為だと思います。私はサインを頼まれますと、大抵こう書きます。「鬼手仏心」。外科手術は体を切り開き鬼のように残酷に見えるが、患者を救いたい仏のような慈悲心に基づいている、という意味です。本当に仏のような慈悲心を持って私が手術をしていたかという、忸怩（じくじ）たる思いを禁じ得ないのですが。

「未必の故意」という法律用語があるのですが、これが意外と医療に当てはまり言い得て妙なところがあるんです。辞書によればこういふことです。『行為者が罪となる事実の発生を積極的に意図希望したわけではない。つまり、故意ではない、しかし、自己の行為からある事実が発生するかもしれないと思いながら、発生しても仕方がないと認めて行為する心理状態。故意の意思』私も経験がありますが、この手術はちょっと自分の手に負えそうにないな、大丈夫かなと思いつつもやってしまうと、大抵失敗します。大変に罪なこと、自信のない手術はしてはいけないのですが、先輩の手を借りるのはしゃくだとかというような面子でついやってしまってミスをしてしまう。こうした医療事故は後を絶ちません。痛ましい限りです。

最近医療事故が増えつつあります。手術がだんだん難しくなってきたので、なかなか患者さんも厳しいことを言われてこられます。世間を一番騒がせた事件があります。内視鏡で前立腺の手術を始めたのですが、12時間経っても終わらないで、じわじわ出血を起こして患者さんの容体がどんどん悪くなっていく、同じ大学の麻酔医が、「ちんたらちんたらやっていないで早く止血して手術を終えろ」と外科医に怒鳴ったというお粗末な手術をしてしまった。後でわかったことですが、この執刀医はこの種の手術をほんの数例しかやっていなかったのです。つまりは、未必の故意であったと思われるわけです。

肝移植の変遷をたどってみますと、最初は肝臓は取らずにそのまま置いておいて、元の肝臓の機能に期待しながら、死体から取った肝臓をその下に埋め込む、『補助肝移植』というのをピッツバーグのスターツルが1963年に初めてやりました。

日本では1964年と1968年に、千葉大学の中山 恒明教授らによって行われましたが、あえなく数日でダメになったと聞いています。その後、島根医大の永末先生が初めて生体肝移植を行い、8カ月くらい生きましたが、残念ながら亡くなりました。以後は生体肝移植が日本の肝移植の主流になっています。世界で4,000例くらいされていますが、ほとんどは日本でされています。

脳死が認められるようになって初めて脳死肝移植が順天堂の川崎 誠治先生によって成功しました。スターツルは1968年に初めて先天性胆道閉鎖症の小児に試みましたが、結構早くに亡くなっています。札幌医大の心臓移植手術でも分かる通り、日本だったら失敗だと言われたでしょうが、アメリカでは成功ととらえました。

臓器移植は6年経ってもわずか25例という状況だったのですが、臓器の移植に関する法律が改正になり、大幅に増加してまいりました。肝移植の適応となる病気は何かと言いますと、子どもの『先天性胆道閉鎖症』が一番。それから、『先天性胆管硬化症』という、胆管が固くてぼろぼろになってしまう病気。『ウィルソン病』『肝硬変』などです。私がピッツバーグに赴いたころは、肝硬変に対して年間200例の移植が行われていました。日本は圧倒的にウイルス性が多いですが、アメリカはアルコール性が多

いです。

それまで肝硬変に対しては、いろいろな手術がやられてきましたが、要は全部対症療法です。肝硬変そのものは残るので、結局は肝硬変の寿命になってしまいます。それを、壊れたものはどうしようもないからと完全に取替えるのが肝移植で、理に叶った根治療法なわけです。肝移植は大変な手術ですが、求める人は後を絶たず、慢性的なドナー不足です。

世界で初めて心臓移植を行ったクリスチャン・バーナードはこんなことを言っています。『ライオンに追われた男が川岸まで追い詰められた。川にはワニが何匹もいる。イチかバチかだが男はためらわずに川に飛び込むだろう。そのままなら獅子に食われてしまうが、飛び込めば、何とかワニをかわして向こう岸にたどり着ける一縷の望みがある。移植を待つ患者は等しくこの男のような心境に相違ない』。

最近、こうした最後の希望を抱いて日本で待っていたが望薄なのでアメリカへ渡って行き移植手術が成功した幼児がいます。

『先天性肺嚢胞症』という、両肺の肺泡が膨れ上がり、そこに痰がたまって吐き出せなくて苦しくなる、二十歳以上生きるのが難しい病気があります。これに侵された日系二世の姉妹がいます。1人は二十歳代で結婚しました。大学も卒業しましたが、その時点で肺がダメになったので移植を受けました。成功して、今、40歳で、元気です。

移植の素晴らしさを改めて痛感させられています。

原作：「孤高のメス」シリーズ
(全10巻)・幻冬舎文庫
主演：堤 真一・夏川結衣
その他のキャスト：

吉沢 悠・中越典子・
成宮寛貴・平田 満・
余喜美子・生瀬勝久・
柄本 明 等

内容：1989年、脳死肝移植が認められていなかった頃。ある地方の市民病院に赴任してきた外科医、当麻鉄彦。兇衆と体裁を気かけ、簡単な外科手術ひとつまともに行われないその腐敗した病院で、次々と困難な手術を成功させる当麻。彼の『目の前の患者を救いたい』という信念は、やがて病院を、そして人々を動かしていく。

そんな中、病に倒れた市長が市民病院に搬送されてくる。彼を助ける方法は、娘からの生体肝移植もあったが丁度、其の時、同じ病院に事故で脳死状態の少年が入院していた。少年の母は『あの子が、大切にしていた気持ちを最後まで大切にしたい……。それがささやかな希望におもえたのです。』と脳死下の臓器提供を強く希望した。しかし、それは日本の法律ではいまだ認められていない禁断の手術であった。当麻は患者が移植手術でしか救うことが出来ない状況で、ただそこにある命を救うために、彼は最後の決断をする。現代医療が直面する、移植医療・地域医療の問題について一石を投じた珠玉の感動作です。



◀映画上映「孤高のメス」
(2010年東映作品)▶

振り返りアンケート結果

140名参加の内110名より回答あり。
回答率79%

回答者の性別 男性32人(29%) 女性78人(71%)

回答者の年代 20代以下(5%) 20代(7%) 30代(8%)
40代(20%) 50代(26%) 60代(23%)
70代以上(6%) 無回答(5%)

1 参加者所属

一般(46%) 学生(7%) 医療関係者(15%) 県職員(26%)
腎友会(2%) その他(4%)

2 参加の理由(複数回答可)

●映画に興味・80人 ●講演に興味・69人 ●仕事の一環として5人
●その他19人

3 今後どのような講演が聞きたいか?(複数回答可)

移植を受けた方の話……48人 臓器提供された家族の話……65人
移植を待っている方の話……27人 医療関係者……32人

4 その他感想

「人の命や家族の絆について、改めて考える機会となった」「講演に興味深く解りやすかった。」「講演を聞いてからの映画であり、映画の視点が少し違って観れた。とても良い映画であった。」「臓器提供のドナーは必要だと思いつつ、やはり、まだ受け入れがたい。」「臓器移植の重要性、今後の課題など改めて考える機会をいただいた。」「知ること、関心を持つことはとても大切だと思った。」など多くの意見をいただきました。映画原作者の講演があったことで、映画の理解が深まり、感動的な場面が多い映画で涙を流しながら観て頂く方も多くありました。

入場無料

25年度

第6回グリーンリボン公開講座のご案内

■日時 平成25年10月6日(日)
13時30分から16時(13時開場)

■場所 倉吉未来中心 小ホール
倉吉市駄経寺町212-5 倉吉パークスクエア内

■テーマ 『移植医療を考える講演とコンサート
～つなぐ命の大切さを考える～』

講演

講演① 『日本の移植事情と提供家族への関わり』
塚本 美保 氏
(日本臓器移植NW西日本支部チーフ移植コーディネーター)

講演②: 『腎移植手術を受けた体験談』

講演③: 『臓器提供した家族の想い～兄貴へ～』

■コンサート (入場無料)

腎移植者によるコンサート

多くの方の来場をお待ちしています。

鳥取県院内移植コーディネーター会議を2回開催

鳥取県院内移植コーディネーターは、移植医療の推進のため、自病院内の移植医療についての窓口的業務、院内体制整備、普及啓発の役割を担っていただく方です。院内移植コーディネーター設置病院が7病院となり、院内移植コーディネーターも27名となりました。各病院の取り組み発表や研修会を行い、院内移植コーディネーターのレベルアップの場としています。

第5回鳥取県院内移植コーディネーター会議 (平成24年6月22日開催。於：鳥取県立厚生病院)

- 内容**
- ①発表：各病院の『臓器提供に関する院内体制への取り組み』
 - ②報告：『鳥取県内最近のドナー情報報告』：永栄幸子(鳥取県臓器移植コーディネーター)
 - ③講演：『脳死下での臓器提供事例に係る検証会議102例の検証のまとめについて』：
小野塚綾子(日本臓器移植NW西日本支部コーディネーター)
- その後、質疑応答や各病院での今後の対策について討議がなされました。



第6回鳥取県院内移植コーディネーター会議 (平成25年1月11日開催。於：鳥取大学医学部附属病院)

- 内容**
- ①発表：各病院の『臓器提供に関する院内体制への取り組み』
 - ②講演1：『鳥取県における心停止下臓器提供時の実際』 高橋千寛(米子医療センター)
 - ③講演2：『心停止下臓器提供時の院内移植コーディネーターの役割』
藤原亮子(兵庫県臓器移植コーディネーター)
 - ④報告：『鳥取県での7月からの事例報告』 永栄幸子(鳥取県臓器移植コーディネーター)
- 心停止下臓器提供がテーマの会議でした。実際の状況を想定しながらの質問や意見交換がなされました。今回オブザーバー参加が多くあり、多方面からの意見がでました。



第1回山陰地区脳死下臓器提供セミナーを開催

平成24年6月30日(土)10時～16時山陰地区で始めて、医療従事者対象のセミナーを開催しました。

目的は脳死下臓器提供の流れを講演とシミュレーションで理解していただく。そしてそれを各病院に持ち帰り、その病院にあった研修会やシミュレーションを企画していただくためであった。

- プログラム**
- ①『臓器移植の現状と脳死下臓器提供の流れ』：渡邊智生(日本臓器移植NW)
 - ②『脳死患者家族への対応～山陰労災病院事例を通して～』 多田裕子(山陰労災病院)
 - ③『脳死診断の実際』 沖 修一(荒木脳神経外科病院)
 - ④『当院におけるECI記録～2症例を経験して～』 小島大造(福山市民病院)
 - ⑤『脳死下臓器提供シミュレーション』 参加者に配役を担っていただき、シナリオに沿って、ロールプレイを行った。

参加者は総勢86名(医師13名、看護師22名、検査技師29名、事務8名、警察官4名、その他10名)であった。医療現場で実際に行われる様々なことを想定しての質疑応答が真剣に行われた。



『移植を受けた子ども達の作品展』を開催



平成24年7月9日から8日間をイオン日吉津店。
8月7日から13日間を倉吉未来中心。8月21日より11日間を
イオン鳥取北店。3会場(合計32日間)で絵画30点とスポーツ大会の写真10点をパネル展
示しました。
イオン日吉津店では、日曜日に啓発グッズの配布を行い、臓器移植に関するミニ講座や
相談会も行いました。
移植手術で命を繋いだ子ども達が、素朴な絵や言葉で生きる喜びを表現している、心あ
たたまる作品展。各会場とも多くの方に鑑賞していただきました。
ミニ講座には5～6人位の方が、紙芝居形式での話を聞いてくださいました。
他県で肺移植を受けた方が、元気になった事に感謝をして、ミニ講座に来てくださいま
した。

作品展来場者の感想

- 今を生きることの素晴らしさを感じます。
楽しく自分のペースで生きてください。(60代男性)
- 私自身も癌と戦っているので涙がでました。良かった。
勇気が出ました。(40代女性)
- 移植により救える命が沢山あるだろうことを実感させられました。(50代女性)
- 命があり、生きていく喜びはすごく素晴らしい事だと、改めて思いました。
(20代女性)



10月には臓器移植普及推進街頭キャンペーンを開催しました



平成9年10月の『臓器移植法』の施行後、毎年10月は臓器移植普及推進月間です。
改正臓器移植法が施行となり3年目。今回で15回目を迎えた街頭キャンペーン、
沢山の方の協力を得ました。また、合計800人(東、西部各300人。中部200人)
の方に臓器提供意思表示カードの所持、記入に関するアンケート回答をいただき
ました。この調査も今年で15回目となり、当財団の貴重なデータとなっています。
今年は運転免許証、保険証の所持についてもお聞きしました。

日時

平成24年10月7日(日) イオン鳥取北店ショッピングセンター
平成24年10月14日(日) イオン日吉津店ショッピングセンター
平成24年10月23日(日) 倉吉未来中心

関係団体、ボランティア等総勢119名で行いました。沢山の方のご参加ありがとうございました。
ご協力いただいた団体(施設)は以下のとおりです。(順不同、敬称略)

東部地区ーイオン鳥取北店ショッピングセンター(ボランティア46名)

鳥取砂丘ライオンズクラブ、鳥取いなばライオンズクラブ、鳥取千代ライオンズクラブ、鳥
取久松ライオンズクラブ、鳥取中央ライオンズクラブ、鳥取信用金庫、鳥取県立中央病院、吉野・
三宅S Tクリニック、さとに田園クリニック、鳥取県立倉吉総合看護専門学校、鳥取県東部
薬剤師会、東部総合事務所福祉保健局、鳥取県腎友会、県庁職員(トリピーも)

西部地区ーイオン日吉津店ショッピングセンター(ボランティア45名)

米子医療センター附属看護学校、鳥取県立倉吉総合看護専門学校、境港ライオンズクラブ、大
山ライオンズクラブ、米子城山ライオンズクラブ、米子中央ライオンズクラブ、鳥取大学医学
部附属病院、山陰労災病院、米子医療センター、米子市健康対策課、鳥取県看護協会(大山リ
ハビリテーション病院)、鳥取県腎友会、県庁職員(トリピーも)

中部地区ー倉吉未来中心(ボランティア28名)

倉吉北ライオンズクラブ、谷口病院、谷口病院附属診療所東伯サテライト、鳥取県立厚生病院、鳥取県立倉吉総合看護専門学校、米子医療センター
附属看護学校、中部総合事務所福祉保健局、鳥取県中部薬剤師会、倉吉市保健センター、鳥取県看護協会(倉吉看護専門学校)、鳥取県腎友会、
県庁職員(トッキーノも)



地域の皆様にお世話になり、普及啓発活動を行いました

今年も鳥取県の地域の方々のご協力の下、様々な啓発活動を行うことができました。ありがとうございました。

臓器提供意思表示カードの設置・配布

・鳥取県看護協会主催看護フェア・鳥大病院・米子医療センター看護の日イベント・米子市ふれあい健康フェスティバル・鳥取県看護協会総会・鳥大医学部錦祭・境みなと寄席 など。
・県内 270 薬局・42 公民館に臓器提供意思表示カードの設置。



研修会(出前講座)

・鳥取大学病院健康ミニ講座・米子市福生西公民館・明道公民館大学あすなろ学級人権講座、鳥取市立病院・鳥取県立保育専門学院・信生病院・境港ライオンズクラブ・鳥取中央ライオンズクラブ・境港市倫理法人会・鳥取県警察学校検視実務専科、各医療系学校など計 23 回実施



広 報

- ♥山陰本線普通気動車に内額面ポスター広告を 1 年間掲載。(8 枚)
- ♥日の丸バス 5 台にステッカー広告 1 年間掲載
- ♥B S S テレビコマーシャルを臓器移植普及推進月間中放映
- ♥朝日新聞に臓器移植普及推進月間(10 月) P R 広告を掲載
- ♥日本海新聞に目の愛護デー(10 月 10 日) P R 広告を掲載
- ♥読売新聞にアイバンク登録に関する P R 広告を 2 回掲載
- ♥鳥取県タクシー協会の協力にて県内 694 台タクシーにグリーンリボンステッカー貼付
- ♥ J R 時刻表へ改正臓器移植法と当財団の P R を掲載
- ♥移植を受けた子供たちの作品展が N H K、中海テレビ、ケーブルテレビ日本海で放映。朝日新聞、日本海新聞に掲載
- ♥山陰放送おしゃべり本舗で臓器移植普及推進月間・第 5 回グリーンリボン公開講座を P R
- ♥ N H K テレビ『ふるさと伝言板』で、第 5 回グリーンリボン公開講座を紹介



鳥取県の臓器移植をとりまく環境

①鳥取県で献腎移植を待っている人は？→「38人(腎臓)(平成25年3月末現在)です」

全国では約 13,000 人の方が移植を希望しています。ちなみに、鳥取県の人工透析患者数は毎年増え続け、平成 2 年は 562 人だったのが平成 24 年度には 1,585 人で昨年より 108 人の増加です。全国的に糖尿病による腎不全が増加しています。病気になる可能性は誰にでもあります。予防に努力しましょう。

②現在までに鳥取県で献腎移植を受けた人は？→「8人(平成24年3月末現在)です」

亡くなった方からのご提供により、今までに 8 人の方が腎臓の移植を受けられました。

③臓器移植法制定後より鳥取県で臓器提供をした人は？→「3人(平成25年3月末現在)です」

平成 11 年と平成 15 年に心停止後の臓器提供(腎臓)がありました。平成 23 年に脳死下臓器提供(肺・脾腎・腎・眼球)がありました。ご提供者様とご家族に敬意と感謝の意を表し、ご提供者様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

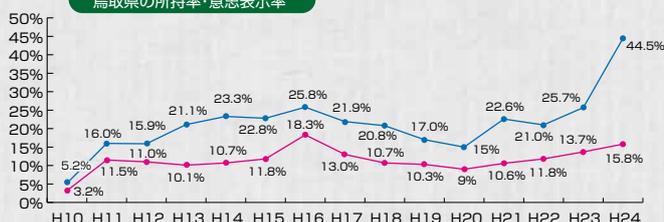
④H24年度のドナー情報は？→ 5件あり、内2件は角膜の御提供をしていただきました。3件はご家族が辞退されたり、医学的理由で提供には至りませんでした。

⑤鳥取県で臓器提供意思表示カードの所持率は？→「44.5%の方が持っています(平成24年10月調査)」

平成10年から調査を15年間続けています。平成20年度の全国の所持率が8.2%で、全国よりも鳥取県は高い結果(調査方法は異なりますが)となっています。意思表示率は15.8%(全国は8.4%)でした。意思表示欄付の被保険者証・運転免許証が定着して所持率が高くなったと考えられます。カードには「臓器提供したい」「臓器提供したくない」どちらの意思も記入することができ、その意思はご本人の意思として尊重されます。臓器移植法が改正され、特に「臓器提供したくない」の書面による意思表示は重要になってきました。県民の皆様にご自分の意思表示をしていただくために、正しい情報・知識をお伝えしていく活動を続けています。また、御自分の意思をご家族にきちんと伝えておくことも大切です。

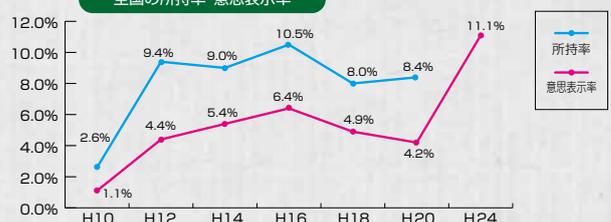
鳥取県の所持率・意思表示率

鳥取県臓器バンク調べ



全国の所持率・意思表示率

厚生労働省調べ



臓器移植に関する



Q 臓器移植とは？

A 臓器移植は、病気や事故によって臓器(心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓、小腸、眼球)が機能しなくなった方に、他の方の健康な臓器を移植して機能を回復させる医療です。そしてそれは、善意による臓器の提供によって、はじめて成り立つ医療です。

Q 臓器提供するために、事前に必要な手続きはありますか？

A 事前の手続きは必要ありませんが、ご自身の提供したいという気持ちを意思表示カード等で表示し、その気持ちをご家族に伝えておくことが大切です。平成22年7月17日に施行された改正臓器移植法により、本人の意思が不明な場合でもご家族の承諾があれば臓器提供できるようになりましたが、もしもの時に家族が判断に迷わないためにも、臓器提供についての意思を表示しておきましょう。

Q 臓器提供は、誰でもできますか？

A 意思を表示することに年齢制限はありません。高齢の方でも病気で薬を飲んでいる場合でも記入していただけます。提供の際には、過去、現在の健康状態や血液検査などから提供できるかどうか専門の医師によって判断されます。これまでに、0歳～70歳代の方からの臓器提供が行われています。また、眼球(角膜)に関しては年齢制限がありません。

Q 提供後のからだはどうなりますか？

A 入院している病院で、数時間(3～5時間)の摘出手術をした後にご家族の元に戻ります。臓器を摘出するための傷ができますが、きれいに縫い合わせて清潔なガーゼで覆い、外から見ても傷はわかりません。また、眼球提供の際は、義眼を入れて生前のお顔と変わらないように配慮します。臓器移植法では、ご提供をいただく方の体を大切にするように決められています。

Q 提供する時に費用の負担や謝礼はありますか？

A 臓器提供者の方に提供に関する費用は一切かかりません。また、善意による提供ですので、葬儀の費用や謝礼が支払われることもありません。

Q 運転免許証や被保険者証に意思標示欄がありますが、記入しないといけないのですか？書き直しはできますか？

A 記入は任意です。一旦記入した意思を変更したい場合は二重線などで消して、新たな意思がわかるようになっていけば書面による意思表示として有効です。再発行してもらうこともできます。(運転免許証の場合は有料)。

Q 病院で臓器提供意思表示カードをもっていることを伝えると治療内容が変わったりするのでしょうか？

A 病院は、あなたの命を救うことを第一に考えて医療を行っています。意思表示カードを持っていることで治療が変わることはありません。

Q 絶対に臓器を提供したくないのですが。

A 臓器を提供しない意思は、年齢にかかわらず、口頭でも有効ですが、その気持ちがきちんと尊重されるためにも、臓器移植ネットワークの意思登録サイトに登録しておきましょう。ここに登録しておけば、ご家族から臓器提供のお申し出があっても、ご本人の意思を確認し、提供しない意思が登録されていけば、絶対に提供されません。

賛助会へのご協力ありがとうございました。

個人・団体会員で合計 **1,168,000 円** の賛助会費をいただきました。

皆様からいただいた賛助会費は普及啓発、事務局運営に必要な経費として支出しました。

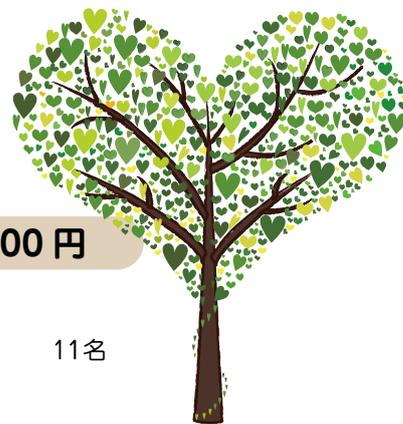
団体会員(順不同)

合計 **36 団体** **720,000 円**

鳥取いなばライオンズクラブ
米子城山ライオンズクラブ
境港ライオンズクラブ
境港美保ライオンズクラブ
米子グレートサウスライオンズクラブ
鳥取中央ライオンズクラブ
鳥取久松ライオンズクラブ
米子東ロータリークラブ
社団法人鳥取県看護協会
社団法人鳥取県薬剤師会
社団法人鳥取県医師会
社団法人鳥取県歯科医師会
鳥取県腎友会
鳥取信用金庫

株式会社エミネット
岡本医院
鳥取赤十字病院
米子医療センター
鳥取県立厚生病院
医療法人社団魚谷眼科医院
医療法人清生会谷口病院
日野病院組合日野病院
医療法人同愛会博愛病院
医療法人上福原内科クリニック
医療法人社団ミオ・ファティリティ・クリニック
医療法人養和会
医療法人真誠会セントラルクリニック
医療法人社団うえますクリニック

鳥取県済生会境港総合病院
日南町国民健康保険日南病院
鳥取県中部医師会立三朝温泉病院
医療法人秋穂整形外科医院
医療法人ファミリークリニックせぐち小児科
医療法人萌生会伯耆中央病院
医療法人さとに田園クリニック
社会法人明和会医療福祉センター渡辺病院



個人会員

合計 **167 名** **448,000 円**

県職員	40名	バンク理事・監事他	6名		
県地方機関職員	67名	県医師会員	40名	個人	11名
市町村	3名				

平成 24 年度決算報告

平成24年度も鳥取県からの補助金、皆様からいただいた賛助会費、県債・国債の運用益、角膜等のあっせん手数料等により活動しましたのでご報告します。(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

経常収益

(単位:円)

基本財産運用益	1,052,189
受取賛助会費	1,168,000
角膜等あっせん受取手数料	900,000
鳥取県受取補助金	11,376,000
(社)日本臓器移植ネットワーク受取補助金	411,685
(公財)日本アイバンク協会受取補助金	40,180
受取寄附金	168,421
受取利息	976
経常収益計	15,117,451

経常費用

(単位:円)

事業費	11,919,075
臓器バンク	10,508,677
アイバンク	1,410,398
管理費	3,416,588
経常費用計	15,335,663

当期一般正味財産増減額 △218,212円

お知らせ

腎臓移植医療についての相談・質問をお引き受けしております。

鳥取県臓器・アイバンクでは、移植医療や腎臓移植についての相談やご質問にお答えいたします。更に、専門医への相談も調整いたします。

専門医師(腎移植認定医)

- 濱副 隆一：米子医療センター病院長(外科医)
- 杉谷 篤：米子医療センター副病院長(外科医)
- 高橋 千寛：米子医療センター診療部長(泌尿器科医)
- 井藤 久雄：鳥取県立厚生病院長(病理医)

連絡先：TEL 0859-34-4809
(相談無料:受付は平日8:30~17:15)

当財団ではアイバンク事業も行っています

公益財団法人鳥取県臓器・アイバンクは厚生労働大臣より眼球のあっせん業許可を受け、平成24年4月1日より眼球のあっせん業を事業の一つとしております。つきましては、眼球のあっせん(献眼希望や献眼登録など)に関するお問い合わせも公益財団法人鳥取県臓器・アイバンク(34-4809) にお願ひします。



臓器移植の出前研修お引き受けします

職場や地域での会等にお伺いし、無料で出前研修を行います。(どんな機会でも、少しの時間でも結構です。人権研修として行うことも可能です。) 移植医療を通じて「いのちの大切さ」を皆様と話し合っていきたいと思っています。鳥取県内であればどこでも伺いますので希望される場合は当財団にご連絡下さい。

おねがい

賛助会員・寄附金へ協力をお願い

当財団の運営は、基本財産の運用益と皆様からの賛助会費やご寄付による支援により行っております。当財団の活動に皆様の温かいご支援をお願いいたします。当財団の賛助会員にご加入いただいた場合、特定公益増進法人への寄付金として、金額により税制上の優遇措置が受けられます。(詳しくは最寄りの税務署へお問合せ下さい。)

賛助会員会費 団体会費 1口 20,000円
個人会費 1口 2,000円

振り込み先 郵便振替 01350-5-92999

口座名義 公益財団法人鳥取県臓器・アイバンク

当財団にご連絡いただければ、払込手数料が無料になる払込用紙を送付いたします。また免税申請をされる場合には、当財団発行の領収書と税額控除に係る証明書が必要となりますので、お申し出ください。

臓器提供の意思表示にご協力ください。

あなたなら、
どうしますか?

臓器移植以外に治療する方法のない病気が誰がいつなっても不思議ではありません。

臓器移植の4つの権利



どの気持ちも等しく尊重されます。

ご家族と話し合って意思表示を

自分の意思を 臓器提供意思表示カードです。
家族に伝える



臓器提供の意思表示は、健康保険証、運転免許証、インターネットでもできます。

臓器移植

検索

おわりに

平成24年度も皆様のご協力により、多くの活動ができました。今年度は、医療従事者対象の脳死下臓器提供セミナーを開催し盛会でした。それにより各病院の臓器提供に関する認識が高まり体制整備も進みました。県内各地での研修会やイベント参加などの活動はホームページに掲載しております。また、当財団は公益財団法人鳥取県臓器・アイバンクとなり、より一層充実した活動が望まれ、平成24年9月より臓器移植コーディネーターを2人体制にいたしました。県民の皆様に対しましては、今後とも、改正臓器移植法について、正しく理解していただき、ご自分の意思をご家族と共に、共有していただけるよう宜しくお願い申し上げます。

公益財団法人 鳥取県臓器・アイバンク
〒683-8504 米子市西町36番地の1(鳥取大学医学部内)

TEL (0859) 34-4809
ホームページ: <http://www.zouki-t.net>